

病害虫発生予察情報(10月予報)

令和5年9月27日

静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

| 作物名 | 病害虫名 | 予報 (10月の県平均平年値) | 予報の根拠 |
|-----------|-------------------------|---|--|
| 稲 | トビイロウンカ | 発生量：やや少 | 9月中旬発生量：少 (－) 9月の成虫誘殺数：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 温州 みかん | 青かび・緑かび病 | 発生量：やや多 (落果発病数1.0果/樹) | 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | ミカンハダニ | 発生量：やや少 (寄生葉率1.6%) | 9月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 中晩柑類 | かいよう病 | 発生量：多 (発病度(果)0.5) | 9月中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 果樹全般 | カメムシ類 | 飛来数：多 | 9月上中旬誘殺数：多～やや多 (＋) ヒノキ・スギ球果着果量：やや少 (＋) ヒノキ・スギ球果寄生数：やや少 (－) ヒノキ球果吸汁痕数：並 (±) 病害虫防除員報告：多～やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| 茶 | チャハマキ | 発生量：やや多 (寄生虫数0.5頭/1.25m ²) | 9月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | チャノコカクモン ハマキ | 発生量：やや多 (寄生虫数0.6頭/1.25m ²) | 9月中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | カンザワハダニ | 発生量：少 (寄生葉率1.3%) | 9月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| トマト | 葉かび病・ すすかび病 | 発生量：並 (発病株率12.6%) | 9月中下旬発生量：やや少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | 黄化葉巻病 (タバコ コナジラミ) | 発生量 黄化葉巻病：並 (発病株率1.9%) コナジラミ類：並 (寄生株率11.9%) | 9月中下旬発生量：少 (－) 9月中下旬のコナジラミ類発生量：やや少 (－) 病害虫防除員報告：やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) |
| だいこん | コナガ | 発生量：やや多 (寄生株率0.1%) | 9月トラップ捕獲数：やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |

| 作物名 | 病害虫名 | 予報 (10月の県平均平年値) | 予報の根拠 |
|-------------|-----------|------------------------|---|
| ねぎ (白ねぎ) | 黒斑病・葉枯病 | 発生量：やや少 (発病株率3.6%) | 9月下旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | ネギアザミウマ | 発生量：並 (寄生株率18.3%) | 9月下旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | シロイチモジヨトウ | 発生量：多 (寄生株率1.5%) | 9月下旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | ネギハモグリバエ | 発生量：並 (被害株率45.8%) | 9月下旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| いちご | 炭疽病 | 発生量：やや多 (発病株率1.7%) | 9月発生量：平年並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) |
| | ハダニ類 | 発生量：やや多 (寄生株率12.5%) | 9月発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) |
| 作物全般 | ハスモンヨトウ | 発生量：多 | 9月トラップ誘殺数：多 (＋) 9月発生量：やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |
| | オオタバコガ | 発生量：やや多 | 9月の成虫誘殺数：少～やや多 (－～＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：ほぼ平年並 (±) |

表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年（静岡県のご過去10年間）との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、平年（静岡県のご過去10年間）との比較で、「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況（調査時期と発生量）、気象庁の1か月予報（気温と降水量）を記入しています。その状況が多発要因の場合は（＋）、少発要因の場合は（－）を示し、＋－を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

農薬情報は
こちらで検索！



静岡県農薬安全使用指針
・ 農作物病害虫防除基準

<https://www.s-boujo.jp/>

2 予報の根拠と防除対策

【稲】

●トビイロウンカ

予報の根拠

- ・ 9月中旬の巡回調査では、本種の平均寄生株率は0.05頭/株（平成0.7頭/株）と平成より少なかった。
- ・ 県内4カ所の予察灯では、9月は第2半旬まで誘殺が確認されておらず、平成より少なく推移している。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平成並で、気温は平成より高いため、本種の増殖を助長する。

防除対策

- ・ 気温が高い場合に急増することがある。被害や成虫の寄生を確認した場合は薬剤防除を実施する。

【温州みかん】

<生育の概況等>

生育は数日早く、果実の肥大は平成並の産地が多い。

●青かび・緑かび病

予報の根拠

- ・ 1か月予報では、気温は平成より高く、降水量はほぼ平成並のため、本病の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 病原菌は土壌中に胞子の形で存在し、土ぼこりとともに果実表面に付着、傷口から感染する。台風などの強風雨は胞子が跳ね上がるため、樹上での発生を助長する。
- ・ 樹上果、摘果果実ともに発病果を放置すると胞子形成が進み発生が増加していく。ほ場の見回りを行い、発病果は発見し次第速やかに園外に持ち出して処分する。
- ・ 収穫時のハサミ傷や収穫コンテナに混入した枯れ枝や小石などによる傷は、感染を助長し貯蔵中の発病が増加する。果実の運搬や選果が手荒で果皮に傷が付く場合でも同様であるため、丁寧な収穫作業を行う。

●ミカンハダニ

予報の根拠

- ・ 9月中旬の巡回調査では、平均寄生葉率は0.7%（平成2.5%）と平成より少なかった。
- ・ 1か月予報によると、降水量はほぼ平成並だが、気温は平成よりも高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 着色期に寄生すると果実の外観が損なわれることから、多発している場合は防除を行う。

<その他の病害虫>

●黒点病

- ・ 9月中旬の巡回調査では、果実の発病度は1.1（平年0.9）と平年よりやや高かった。
- ・ 本病は風雨によって伝染し多雨は発生を助長するため、秋雨による果実への感染についても注意する。
- ・ 枯れ枝で孢子が作られるため、樹冠内部の枯れ枝や園の内外に放置された剪定枝、切株などが伝染源となる。過去数年、本病は多発傾向であるため伝染源の除去の徹底と、除去した枝などを必ず処分し、園内、周囲に放置しないこと。

●褐色腐敗病

- ・ 病原菌は土壌中に存在し、雨による泥のはね上がりなどで遊走子が果実に侵入する。
- ・ 主な伝染は水媒介であり、10月に強い降雨があると感染・発病するため降雨前に防除を行う。適温下での病原の増殖は著しく早く、感染が拡大しやすいため、過去に発生した園では特に注意が必要である。
- ・ 園内の排水溝の整備、通風を良くするなど地表面の乾燥に努める。マルチ栽培による泥はねの防止や結果枝のつり上げなどで果実を地表面から離すなど耕種的防除に努める。

【中晩柑類】

●かいよう病

予報の根拠

- ・ 9月中旬の巡回調査では、果実の平均発病度は1.5（平年0.4）と平年より多かった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並のため、本病の発生を助長する。

防除対策

- ・ 傷口より感染するため台風などの強風雨は感染を著しく助長し、発生量が少ない圃場でも急激に多発する場合がある。気象情報とほ場の発生状況に注意し、適宜防除を行う。
- ・ 本病は、感染した組織内の病原菌に対して薬剤の効果がほぼない。発生が見られる園地では感染拡大を防ぐよう、降雨前の予防散布に重点を置く。
- ・ ミカンハモグリガによる加害も傷感染を著しく助長するため、防除する。

【果樹全般】

●カメムシ類

予報の根拠

- ・県内4か所の予察灯における9月上中旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが770頭/か所(平年360頭/か所)、ツヤアオカメムシが549頭/か所(平年258頭/か所)、クサギカメムシが39.3頭/か所(平年24.6頭/か所)であり、いずれも平年より多かった。
- ・県内6か所のフェロモントラップにおける9月上中旬の合計誘殺数の平均は、チャバネアオカメムシが79.5頭/か所(平年61.7頭)と平年よりやや多く、ツヤアオカメムシが22.6頭/か所(平年28.3頭)と平年並であった。同様に、カメムシ類としては104頭/か所(平年92.1頭/か所)と平年よりやや多かった。
- ・繁殖場所であるヒノキ・スギ球果の着果量(結果量指数)は、県平均3.3(平年4.7)と平年よりやや少なかった。
- ・ヒノキ・スギ球果におけるカメムシ類の平均寄生数は、10結果枝あたり3.0頭(平年5.5頭)と平年よりやや少なかった。
- ・9月中旬のヒノキにおける球果1個あたりのカメムシ類の吸汁痕数は、平均13.4(平年15.0)と平年並であった。なお、ヒノキ球果における吸汁痕数が25を超えると、カメムシ類はヒノキから離脱し、餌を求めて果樹園に飛来する。地域別の吸汁痕数は、東部8.7、中部14.3、西部16.3となり、西部でカメムシ類の吸汁が進んでいた。また、場所により吸汁痕数が既に25を超えており、ヒノキからカメムシ類が離脱している可能性もあるため注意する。
- ・果樹関係の病害虫防除員からの報告によると、15名中7名が果樹カメムシ類の発生が「多い」または「やや多い」と回答した。これら多発の報告は、特に中部・西部地域で多く、一部の果樹園(特に中山間地)で本虫の飛来を確認したとの情報も複数寄せられている。
- ・以上をまとめると、予察灯への誘殺数は多く、フェロモントラップへの誘殺数はやや多く、ヒノキ・スギ球果の着果量及び球果における寄生数はいずれもやや少なく、吸汁痕数は平年並であったが、病害虫防除員から本虫の多発報告が多かった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並みだが、気温は高いため、本種の発生を助長する。
- ・1か月予報を加味すると、10月の果樹園へのカメムシ類の飛来数は、平年より多いと予想される。

防除対策

- ・予察灯及びフェロモントラップによる誘殺数は、静岡県病害虫防除所ホームページを参照する。
- ・ヒノキ・スギ林付近の果樹園では多発しやすいため、ほ場での発生状況をよく観察し、発生が見られたら防除を行う。

【茶】

<生育の概況等>

9月中旬の巡回調査時では、いずれの茶園も秋芽生育期であった。秋冬番の摘採はまだ始まっていなかった。

●チャハマキ

予報の根拠

- ・9月中旬の巡回調査では、平均寄生虫数 0.16 頭/1.25 m²(平成 0.20 頭/1.25 m²) と平成並だった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並で、気温は平成より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・被害が見られた茶園では、摘採・整枝後早めに防除を行う。

●チャノコカクモンハマキ

予報の根拠

- ・9月中旬の巡回調査では、平均寄生虫数 0.34 頭/1.25 m²(平成 0.37 頭/1.25 m²) と平成並だった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平成並で、気温は平成より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・被害が見られた茶園では、摘採・整枝後早めに防除を行う。

●カンザワハダニ

予報の根拠

- ・9月中旬の巡回調査では、摘採面の平均寄生葉率は 0.3% (平成 3.0%) と平成より少なかった。
- ・天敵のカブリダニ類の発生は、茶園4カ所の叩き落とし調査で平均 0.5 頭(平成 0.6 頭) と平成並だった。
- ・1か月予報では、気温は平成より高く、降水量はほぼ平成並のため、天敵の働きによりあまり助長されない。

防除対策

- ・既に発生が多い茶園では、整枝後に防除を行う。今後の発生状況をよく観察し、発生が見られたら防除を実施する。

<その他の病害虫>

●褐色円星病

- ・夏～秋に感染し緑斑症状を示した葉が、翌春になって落葉を引き起こす。よって、春になってからの防除では手遅れである。今春、多発したほ場で9月以降に殺菌剤を散布していない場合には、10月中旬に1回防除を行っておくと良い。

●ナガチャコガネ

- ・一番茶で本種による被害が見られた茶園では、10月下旬から11月にかけて畝間から雨落ち部を掘り、幼虫が地表面近くに来たのを確認した上で、薬剤の土壌灌注処理を行う。
- ・薬剤処理は、降雨後に行うと効果的である。

【トマト】

<生育の概況等>

生育は平年並～やや早い傾向だが、高温で穂木、台木の生育が揃わないことにより、一部で遅れもみられる。

●葉かび病・すすかび病

予報の根拠

- ・ 9月中下旬の東部および中遠地区での巡回調査では、平均発病株率 5.3%（平年 6.4%）と平年よりやや少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並のため、すすかび病の発生をやや助長する（菌の生育適温は葉かび病 20～25℃、すすかび病 26～28℃で、どちらも多湿条件で発病が多くなる）。

防除対策

- ・ 本病は潜伏期間が2週間程度と長く、多発してからでは薬剤の効果が劣るため、発病が認められたら直ちに薬剤を散布する。ただし、耐性菌の発生を防ぐため、散布薬剤をローテーションする。
- ・ 多湿にならないように換気につとめ、過度の灌水を避ける。
- ・ 被害葉は感染源となるため速やかに摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。特に多発生ほ場では摘み取り作業を徹底する。
- ・ 本県では、秋期はすすかび病の発生が多い傾向がある。

●黄化葉巻病（タバココナジラミ）

予報の根拠

- ・ 9月中下旬の東部および中遠地区での巡回調査では、本病の発生は確認されなかった（平年 1.0%）。ただし病害虫防除員からのアンケートでは、4名中2名から本病の発生がやや多いとの回答があった。
- ・ コナジラミ類の平均寄生株率は 4.8%（平年 5.3%）と平年よりやや少なかった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年より高いため、コナジラミ類の増殖を助長する。このため、本病の発生も助長される。

防除対策

- ・ 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、ハウス外の土中に埋めるか、ビニール袋に入れて腐らせる等して適切に処分する。
- ・ 脇芽や摘果などの残さは放置すると野良生えとなり、媒介虫や本病の伝染源となるので、ほ場付近には放置しない。
- ・ コナジラミ類に対して以下の防除を徹底する。
 - 施設開口部に防虫ネット（目合い 0.4mm 以下）を設置し、侵入を抑制する。
 - 新芽への成虫の寄生や黄色粘着板の捕獲数に注意し、発生が増加する場合は薬剤防除を実施する。

【だいこん】

●コナガ

予報の根拠

- ・フェロモントラップの調査によると、成虫誘殺は9月上旬は確認されなかったものの、中旬からは平年よりやや多くなっている。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年より高いため、本種の増殖を助長する。

防除対策

- ・ほ場内の発生に注意し、初期防除に努める。

<その他の病害虫>

●軟腐病・黒腐病・黒斑細菌病

- ・高温・多雨の条件で発生が多くなる。1か月予報では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年より高いため、本病の発生を助長する。
- ・生育の衰えは発生を助長するため、排水に注意し、適切な管理に努める。
- ・病原細菌は、暴風雨等による傷口から侵入するので、暴風雨前または直後に防除を行う。特に、葉柄基部から侵入した場合は根部に影響を与え、商品価値を落とすこともあるため注意する。

●モザイク病（アブラムシ類）

- ・モザイク病の発生がみられた場合は、早めに発病株を抜き取り土中に埋めるか、ビニール袋に入れて腐らせる等して適切に処分するとともに、アブラムシ類の防除を行う。

【ねぎ（白ねぎ）】

<生育の概況等>

生育は平年並で推移している。

●黒斑病・葉枯病

予報の根拠

- ・9月下旬の巡回調査では、本病の平均発病株率は0.8%（平年4.7%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年より高いため、黒斑病は発生がやや助長される（黒斑病菌の分生子の発芽・形成適温 24～27℃、葉枯病多発気温 15～20℃）。

防除対策

- ・本病は多湿条件で多発するため、植え溝の両端に排水用の溝を切るなどして、ほ場排水を良くする。また、肥料の過不足により発生しやすいため肥培管理を適切に行う。
- ・薬剤防除は予防散布や初期発生時の薬剤散布の効果が高い。このため、各薬剤の使用回数に注意し防除する。

●ネギアザミウマ

予報の根拠

- ・ 9月下旬の巡回調査では、平均寄生株率は9.2%（平成14.6%）と降雨の影響により平成より少なかった。一方、被害程度（被害度）は、20.7（平成19.7）で平成並だった。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平成並で、気温は平成より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 例年、10月は本種の発生程度が高まる。多発するとネギの生育が遅れるため、発生初期に防除する。発生が多いほ場では早めに防除を行う。

●シロイチモジヨトウ

予報の根拠

- ・ 9月下旬の巡回調査では、平均寄生株率は4.2%（平成1.6%）と平成より多かった。
- ・ 静岡県磐田市（農林技術研究所内）のフェロモントラップによる誘殺数は、9月第5半旬時点で45頭とほぼ平成並である。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平成並で、気温は平成より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ ほ場内を観察し、葉に卵塊（数粒～数十粒の卵の塊で灰白色の毛に覆われている）を見つけた場合は、早急に除去する。
- ・ 多発ほ場では、定期的に薬剤防除を実施する。

●ネギハモグリバエ

予報の根拠

- ・ 9月下旬の巡回調査では、平均寄生株率は12.8%（平成45.4%）と平成より少なかった。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平成並で、気温は平成より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 本種が多発すると生育が遅れるため、発生が見られるほ場では早期に防除する。

【レタス（非結球レタスを除く）】

●ビッグベイン病

- ・ 本病は土壌伝染性のため、常発地では土壌消毒を行う。
- ・ 本病の発生が確認された地域からは土壌の移動をしない。
- ・ 発病ほ場で使用した農機具は十分水洗いし、消毒する。

●斑点細菌病

- ・ 本病は降雨により発病が助長されるため、降雨後はなるべく早く薬剤を散布して予防に努める。
- ・ 発病葉は摘み取って、ほ場外に持ち出して処分する。

●べと病

- ・初発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。特に、育苗期に本病と疑われる症状があった場合や、周辺でべと病が多発している場合など、感染源が多いと思われるほ場では注意する。
- ・育苗期の防除を徹底し、発病株を本ばに定植しないよう苗を厳選する。
- ・発病葉は摘み取って、ほ場外に持ち出して処分する。

●モザイク病（アブラムシ類）

- ・感染時期が早いほど被害が大きいため、ウイルスを伝搬するアブラムシ類の薬剤防除は、特に育苗期や定植後の生育前半に徹底して行う。
- ・発生がみられた場合は、早めに発病株を抜き取り土中に埋めるか、ビニール袋に入れて腐らせる等して適切に処分する。

●ナモグリバエ

- ・常発地域では、育苗期後半または定植時に薬剤を処理する。
- ・定植後は初期発生に注意し、発生を確認した場合は薬剤防除を行う。

【いちご】

<生育の概況等>

苗の生育は平年よりやや遅く推移している。

●炭疽病

予報の根拠

- ・8月の育苗ほの巡回調査では、平均発病株率は0.5%（平年1.8%）と平年より少なかった。
- ・病害虫防除員の報告より、9月発生量は県内主要産地において平年並からやや少ない。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いため、本病の発生を助長する。

防除対策

- ・本病の生育適温は25℃前後であり、高温・多湿条件下で多発生しやすい。
- ・発病株からその周囲へと伝染しやすいため、ほ場の見回りを徹底し発病株や発病が疑われる株の早期発見に努める。発病株はビニール袋に入れ圃場外へ出し、殺菌処理をしてから残渣を処分する。
- ・発病後は薬剤による治療が困難であるため、定期的な防除による予防を心がける。下葉、ランナーの除去など株を傷つけるような作業後は重点的に防除を行う。なお、同一系統薬剤の連用を避けローテーション散布を行うこと。

●ハダニ類

予報の根拠

- ・ 8月の育苗ほの巡回調査では、平均寄生株率は5.3%（平年8.0%）と平年よりやや少なかった。
- ・ 病害虫防除員の報告によると、主要産地における9月の発生量は平年並であった。
- ・ 1か月予報では、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 寄生が認められた場合は少発生のうちに防除する。
- ・ 天敵（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）を利用する場合は、事前に防除を徹底し、天敵導入時にはハダニ類の密度が低くなるようにする。ハダニ類が低密度に維持された条件下での天敵放飼が重要である。

【作物全般】

●ハスモンヨトウ

予報の根拠

- ・ フェロモントラップ調査によると、9月の誘殺数は、複数地点で多く推移している。例年10月が発生のピークとなる。
- ・ いちご病害虫防除員の報告によると、主要産地における9月の発生量はやや多かった。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年よりも高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 初期発生に注意し、若齢幼虫のうちに防除を行う。施設栽培の場合は開口部に防虫網を設置し侵入を防ぐ。

●オオタバコガ

予報の根拠

- ・ フェロモントラップの誘殺数は、浜松市西区協和町および磐田市富丘では平年並～やや多く推移しているものの、浜松市西区伊佐地町では少なく推移している。
- ・ 1か月予報では、降水量はほぼ平年並だが、気温は平年より高いため、本種の増殖を助長する。

防除対策

- ・ 生長点における被害の発生に注意し、初期防除に努める。

3 季節予報

● 1か月予報（東海地方 令和5年9月21日 名古屋地方気象台発表）

【予報期間】 9月23日から10月22日

【予想される向こう1か月の天候】

| | | |
|------------|------------------|-------------------|
| 特に注意を要する事項 | 平均気温は、高い確率70%です。 | |
| 向こう1か月 | 天候 | 天気は数日の周期で変わるでしょう。 |
| | 気温 | 平均気温は、高い確率80%です。 |
| 1週目 | 気温 | 1週目は、高い確率80%です。 |
| 2週目 | 気温 | 2週目は、高い確率80%です。 |
| 3～4週目 | 気温 | 3～4週目は、高い確率50%です。 |

【確 率】

| 期間 | 要素 | 低・少 | 平年並 | 高・多% |
|-------|------|-----|-----|------|
| 1か月 | 気温 | 10 | 10 | 80 |
| 1か月 | 降水量 | 30 | 40 | 30 |
| 1か月 | 日照時間 | 30 | 30 | 40 |
| 1週目 | 気温 | 10 | 10 | 80 |
| 2週目 | 気温 | 10 | 10 | 80 |
| 3～4週目 | 気温 | 10 | 30 | 60 |

【予報の対象期間】

1か月 : 9月23日（土）～10月22日（日）
 1週目 : 9月23日（土）～ 9月29日（金）
 2週目 : 9月30日（土）～10月 6日（金）
 3～4週目 : 10月 7日（土）～10月20日（金）

※ 利用上の注意

- ・気温・降水量は「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020年の30年間における各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります。（気候的出現率と呼びます）。
- ・晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

お問い合わせは

| |
|--|
| 静岡県病害虫防除所 〒438-0803 磐田市富丘678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780 URL https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html |
|--|